

小学校の部 最優秀賞

自分を振り返って

大田市立川合小学校 6年

灘尾 哲宗（なだお あきむね）

「友達に嫌なことを言ったりしたことがありますか。」毎学期行われる学校生活アンケート。ぼくは迷わず「いいえ」に丸をつける。道德の時間でも、「人をいじめるのはいけません。ぼくはそんなことはしません。」とみんなに言える。いや待て、本当にぼくはそんなことを堂々と言っているのか……。人権について学習して深く考えてみると、人権問題に触れることをよくしていることに気がついた。

学校はもちろん、スポ少をしている関係で学校以外にもたくさん友達がいる。友達といるとき、楽しい気分になって「バツカじゃないの。」「アホじゃん。」と平気で口走っていることもよくある。それは、会話の中で笑いが取れるし、友達も笑っているからで、テレビのお笑いの「つつこみ」の感覚でやっている。時々友達の嫌そうな顔を見て、暴言を押さえられることがあるけれど、その場が楽しかったら、楽しい方に流れてお構いなしに嫌なことを言ってしまう。顔が見えているときはまだいいが、ライン

で友達とやりとりするときは、もっと嫌なことを言うことがあ  
る。相手が見えないから、聞こえないから、言いやすいとさえ思  
ってしまう。

よく考えてみると、ぼくは平気で「人権侵害」をしていたと、  
人権の勉強をして思った。周りの人が何も言わないのをいいこ  
とに、楽しい気もちに流されて、嫌なことをたくさん言ってきた  
んだ。アンケートで迷わず「いいえ」と答えるのは、自分は悪者  
だと思いたくない、自分に甘い自分がいたからだ。

いやいや、テレビなどで芸人さんたちがひどいことを言っ  
て、笑いをとっているじゃないか。それはぼくと違うのか？テレビ  
の中で、「バカ。」って言ったり、人を笑いものにしたたりするこ  
ろを見ていると、自分もついついやってしまう。仕方ないじゃな  
いかと、自分に甘いぼくは思ってしまう。テレビの人も言ってい  
るのに、なんであれはよくてぼくたちはダメなんだろう…。疑問  
に思っただけ聞いてみると、テレビの中の人たちは仕事でやって  
いて、嫌なことを言うことも言われることもお互いが納得してや  
っているから成立するということを教えてもらった。大人が仕  
事で行っていることと、子どものぼくがやっていることを一緒  
にしてはいけないんだ。

友達にしてきたことを思い返すと、お互いが納得してやって  
いることはほとんどなかったように思う。一方的に楽しい気分

になって、相手の気持ちを考えずに言っていることが多かったと反省する。ぼくの周りには、そんな自分勝手な言葉や行動を受け入れてくれる人が多くいて、文句を言ったりけんかになったりしなかっただけなんだと思う。でもこれから中学校に行ったら、関わる人もぐんと増える。そうなったとき、ぼくのこういう嫌な部分を受け入れてくれるか分からない。いや、受け入れられないと思っ、変わらなきゃいけないと思う。

二学期の始業式で校長先生が、「二学期はよさで関わるようにしましょう。」と話をされた。よさで関わるとは、プラスの言葉がけをしたり、積極的にいいところを見つけてることだ。今のぼくにぴったりの目標だ。今、自分の人権感覚の甘さに気付いたから、この目標にしっかりと挑戦していきたいと思う。「人権作文って面倒くさい。」なんて、始めは思っていたけど、人権について考えて、自分を振り返ってみたら、変わらなきゃいけないこと、考えて人に接することが自分に必要だということが見えてきた。

これからは、楽しい雰囲気にならず、本当に人が笑顔になるような会話を心がけたいと思う。人もやっているという甘えをなくし、よさで関われる人になりたい。そのために、相手に対して何かを言う時、言うことを立ち止まって考えることが出来るように、もっと学んで正しい人権感覚を身につけたいと思う。